

学びの広場

2021
7月号

問 教育課 学校教育係 ☎(83)7023
生涯学習係 ☎(83)7021



松田町が目指す将来像

「いのち・育み」
未来へ「ツナグ」
進化「つづける」故郷

松田町は、5月に内閣府より、優れたSDGsの取り組みを提案する地方自治体として「SDGs未来都市」に選定されました。県内の町村では初の選定です。SDGsとは、「持続可能な開発目標」であり、その目標達成には、私たち一人ひとりが身近な社会課題を「自分ごと」として考え行動することが、必要とされています。

松田町のSDGsについて未来を担う中学生に向けて発信するため、6月10日(木)、本町長が、松田中学校3年生の「総合的な学習の時間」を使い講話を行いました。

初めに、SDGsとは何なのかの説明と松田町が目指す将来像について話しました。次に町

の現状と課題について話をした後、中学生に17の目標の中から興味を持った目標を尋ね、その目標の達成に向けた町の取り組みなどについて説明をしました。

授業を受けた生徒からは、「今まで、あまり松田町のSDGsについては知らなかったけれど、今日の町長さんの言葉で知らなかったことをたくさん知ることができてよかったと思いました。」

「SDGsを学校で学んだこともあるけれど、今回の講話で、自分の住んでいる町と関連付けて考えることができてよかった。」

「松田町のSDGsは、町の中心となる人だけが頑張るのではなくて、町のみならず頑張ってください。実現するものだと思うので、協力して17のゴールをクリアできるように頑張りたいと思います。」
などの感想が寄せられました。

松田 文化財探訪

続・町指定文化財とその周辺 その20

文化財保護委員 鈴木 一行
すずき かずゆき

中尾農道に沿って(七) 桜観音⑥
(コミュニティ・センターとして2)

「観音堂は女性のコミュニティ・センターとして機能していた」ということを前回述べました。では、男性や子どもたちにとってはどうだったのでしょうか。

観音堂外陣の東西南の三面に俳諧(俳句)の奉納額が掛かっています。東西で対になっている額の最後には「明治庚子第四月観音開扉之際奉額」とあり、明治33(1900)年4月の観音様御開帳時に奉納されたことがわかります。この奉納額には松田村54名を始めとして、現大井町・開成町・山北町・南足柄市・小田原市・秦野市の都合220余名の句が載せられています(大般若経寄進の地域と重なりますね)。また、南面の奉納額は明治17年のもので、50名程の句が見えます。

19世紀初頭の化政文化期、県下の村々では村役人層を中心として和歌・俳諧などの文化活動が盛んになり、藩などの支配領域を越えて文化的交流が行われたと言われています。すると、村役人をリーダーにして一般農民も句会を行っていたことは十分考えられます。当地において

は、観音堂がその会場となっていたのでよう。その証左が明治期の奉納額ではないでしょうか。

「桜観音が遊び場所だった」と御年配の方が話してくださいました。昭和39年の国道拡幅工事で境内が縮小されるまでは、子どもたちの格好の遊び場であったようです。また、観音堂上の墓地には文久3(1863)年の筆子塚があります。筆子塚とは寺子屋の生徒(筆子)が師匠のために建立した墓や供養塔のことです。これにより江戸後期に宝寿院住職恵浄が寺子屋を営んでいたことがわかります。寺子屋の行き帰りに桜観音で遊ぶ子供達の姿が浮かびませんか。

さて、無住の桜観音は庶子自治会(旧戸主会)が所有・管理してきたという歴史があります。しかし、会員減などの理由から自治会による維持・管理が困難になってきているようです。現在、観音堂の傷みは酷く、堂内の板壁の隙間からは外の景色が見えるような有様になっています。

